

# Bike New York

期間：5月6日（日）

参加者：岩井一訓（副院長・診療放射線技師）／長谷拓也（理学療法士）

そもそも、バイクニューヨークとは…。

毎年5月の第1日曜日に開催され、スタートはマンハッタンのバッテリーパークで、ブロンクス、クィーンズ、ブルックリン、スタッテン島の合計5つの区（boro）を走ります。この5つの区を走ることから、バイクニューヨーク正式名称は

“BIKE NEW YORK THE GREAT FIVE BORO BIKE TOUR”

となっています。距離は42マイル（約70km）です。体力がないと大変かもしれません。BIKE NEW YORK は1977年から開催されている歴史あるイベントで、今では、およそ35,000名が参加する、北米最大の大会です。

この日は全線自転車専用になるため、一般道はもちろん高速道路も走ります。走行中はワールド・トレード・センター・ビル、エンパイア・ステート・ビル、クライスラービル、セントラル・パーク、バッテリー・パーク越しの高層ビル群、ブルックリン・ブリッジ、自由の女神、など、ニューヨークの有名なところをほとんど見ながら回ります。

## Bike New York スタート！

バイクニューヨーク本番当日。

朝、5時50分頃にホテルを出発。

地下鉄（Subway）を利用し、スタート地点であるバッテリーパークに向かいました。



バッテリーパークでは Bike New Yorkのレンタル会場となっており、そこで貸し出し用バイク、ヘルメットの手続きをしました。

約 35,000 人のエントリーがあるためゼッケンで色分けし、そのグループごとに時間をずらしてスタートしていました。自分たちは青色ゼッケンで、1 番目 7:30 分出発でした。



スタート地点には、スタートゲートから炎が上がりこれがスタートの合図となっていました…が、後ろに並んでいる自分たちには全く分かりません。自転車を押しながらゆっくりゆっくり進んで行くと遠くに火柱が見え、自転車を押して歩くペースも上がっていき、自転車に乗れたのはスタートゲートの 10m 手前くらいでした。



実際に私たちがスタートしたのは 8 時過ぎでした。副院长岩井のヘルメットにカメラを装着し、実際に Bike で走っている映像を撮影しました。

## ①マンハッタン (Manhattan)

バッテリーパークからスタートしました。まず、スタートゲート前に見えてきたのが、建設途中のワールドトレードセンタービルです。テロの無い世界を祈りながらの出発です。ニューヨークのど真ん中であるチャーチストリート (Church Street) を通り、Avenue of the Americas (6 番街) を通過。いろいろな映画のロケ地になっているニューヨークの中心を自転車でさっそうと走るのはすごく気持ちよかったです。ここで見えてくる有名な建物が、エンパイア・ステート・ビル。キングコングが頂上に捕まっているのが印象的な建物です。

その先に見えてきたのは自然の緑に包まれたセントラルパーク (Central Park)。このセントラルパークは、毎朝散歩していたコースでもあるため、見慣れた風景もあり、実



際に走りながら気持ちよかったです。これだけ大きな自然豊かな公園を全て人工的に作ってしまうアメリカはスケールがでかいなあとも思いました。

セントラルパークを抜けると次に待っていたのは、ハーレム (Harlem) でした。ブラック・カルチャーの聖地とも言われている土地に入った途端、空気や雰囲気は変わり、夜一人では歩きたくないなあと思う程でした。しかし、ハーレムにはブラックミュージックの殿堂でもあり、プロへの登竜門として、1934 年以來行われてきた『アマチュア・ナイト』がアポロ・シアターで行われています。自転車で通過するのみだったのが残念でした。マンハッタンで最後に通過したのは、ハーレムリバーの上を結んでいる橋、マジソン・アベニュー・ブリッジ (Madison Avenue Bridge) でした。



## ② ブロンクス (The Bronx)

ブロンクスは、数十分しか通っていません。それは、マジソン・アベニュー・ブリッジからブロンクスに渡り、数十分走った後にハーレムリバーの上を結んでいるサード・アベニュー・ブリッジ (Third Avenue Bridge) を渡り、再度マンハッタンに戻るルートだったからです。

ブロンクスには、MLB の『NY ヤンキース』の本拠地である『ヤンキー・スタジアム』がある地域です。できればスタジアムの周りを走りたかったです。



## ① マンハッタン 2 (Manhattan2)

マンハッタンに戻ると、フランクリン・D・ルーズベルト高速道路 (FDR Drive) を走行しました。ちなみにフランクリン・D・ルーズベルトは、アメリカ 32 代大統領の名前が由来です。そのまま走行していくうちに、first Rest Area is about half a mile down the FDR Drive と書かれた 1 つ目の休憩所がありました。

しかし、私たちは出来るだけ早くゴールしたかったため、休憩をせずにフランクリン・D・ルーズベルト高速道路に戻り、走り続けました。ここで、HSS 病院 (Hospital for Special Surgery) を発見! この病院は数日後に江本院長と池田理学療法士が研修に行く病院です。「もし、今、けがをしてこの病院で手術したら、院長達が見学するかも…」とか笑い話しながら走り去りました。

そして、イーストリバー (East River) の上を結んでい



るクイーンズボロ橋 (別名 : the 59<sup>th</sup> Street Bridge) を渡り、クイーンズ地域に入りました。

### ③クイーンズ (Queens)

クイーンズに入ってから、ノグチ美術館 (世界に知られた日本人芸術家の一人で庭園には日本から持ち込んだ松や竹などが植えられ、日本的な空間の美術館) の前を通った後に2つ目の休憩所 (Second Rest Area is in Astoria Park) がありました。そこでは、バナナやお菓子類を配っていましたが自分達は、休憩したい気持ちはありましたが、先を急ぎました。



クイーンズは、倉庫が建ち並ぶ街で壁には、スプレーでの落書きが多く見られ、治安の悪さを感じ取れることができました。

次に3つ目の休憩所 (Third Rest Area is in Con Edison Learning Center) がありました。脚が痛くて限界に達していましたが、私たちはそのまま通過しました。二人の表情に段々と余裕が無くなってきたようにも見えました。

現地点では、残り半分以上残っています。これからブルックリンへ入りました。

### ④ブルックリン (Brooklyn)



ブルックリンの地区に入って一番のメインがブルックリン・ブリッジです。ブルックリン・ブリッジは映画『ニューヨークの恋人』でもメインな撮影場所ともなったとして、有名な橋です。ブルックリンに入って15分程は走っていると4つ目の休憩所

(Fourth rest area at Commodore John Barry Park) がありました。

脚と体力に限界を感じ、休憩を取ることにしました。休憩所からは、マンハッタンの街並みがイーストリバー越しに見え、その景色に感動しました。

テレビや洋服のデザインでブルックリンから見たマンハッタンの街並みは見た事があったので、実写は迫力がありました。



また、この休憩所では、バナナ、リンゴ、お菓子、ドライフルーツ、エナジーゼリー、飲料物を無料で配布していました。



バナナやりんごは大量に置いてあり、りんごとバナナを2つずつ食べちゃいました。この時に食べたリンゴとバナナの味は別格でした。



思うぐらい長い橋でした。この橋を超えると最後の区(boro)スタッテン島 (Staten Island) です。

現時点で半分を超えた地点です。意外とここからのコースのアップダウンが激しく、最後に待ち構えていたのは、ナローズ (The narrows) に掛かるヴェラザノ・ナローズ橋 (Verrazano Narrows Bridge)。距離にして約 1.5 ~ 2km の巨大な橋で上



## ⑤スタッテン島 (Staten Island)



スタッテン島 (Staten Island) に到着して、(Fort Wadsworth Festival) 会場があり、参加者みんな自転車を止めて賑わっていました。

自分達も自転車を止めて、写真撮影などを行っていましたが、そこにはゴールやフィニッシュと書かれたゲートもありませんでした。



しかし自分達は、そこがゴールと思い込み、健闘をたたえ合いました。そして、最後のフェリー乗り場に向かいました。しかし、どれだけ自転車を走らせてもフェリー乗り場はありません。そこで気づきました。さっきの場所はゴールではないと。たしかに「GOAL」とも「FINNISH」とも書いてなかったと。フェスティバル会場からフェリー乗り場は 7~8km の道のりでした。

フェリー乗り場に到着。



結果として、40mile (70km) に掛かった時間は 4 時間 15 分程でした。正式なタイムは無いため、ストップウォッチで計測していました。

ここでレンタル自転車を返却し、フェリーに乗り込みました。そのフェリーからは『自由の女神』と『ブルックリンブリッジ』が見えました。

フェリーがスター地点のバッテリーパークに到着し、バイクニューヨークの旅は終了です。

40mile (70km) 不安だらけでしたけど、本番はワクワクした気持ちで自転車を走行することができたので、気持ちよく 40mile 走ることができました。



## 《感想》

副院長・診療放射線技師 岩井一訓

今回、バイクニューヨークに参加して、バイクニューヨークそのもののすばらしさと、ニューヨークの街並み、ニューヨークの人々に対してすごく感動しました。

まず、バイクニューヨークでは、大都会ニューヨークのど真ん中から、そのまわり、ニューヨーク全体を交通整理し自転車専用道路を作ってしまう豪快さを感じ、ニューヨークの街

全体がお祭り一色で走っていてすごく楽しかったです。ただ、レースイベントでは無かったため、スタートはともかくゴールまですごく曖昧で、早く走りたい人にとっては、達成感に欠けるような気がしたイベントでもありました。

また、ニューヨークの全ての区を回ること、ニューヨークの街並みが場所によって全く異なることも解りました。マンハッタン（ニューヨークの中心部）は高層ビルがところ狭しと建ち並び、落書きひとつ無く、すごく治安がいいことが目に見えて解りました。ブロンクスはそこまで高い建物は無いものの住宅地でした。クィーンズに入ると、そこは倉庫が建ち並ぶような街で、落書き等もすごく多く、夜はもちろん、昼間も一人で外を歩けないと感じられました。このように、各地区でこんなに雰囲気異なることを1日で体験できるのはこのバイクニューヨークしかないと思いました。

ニューヨークの観光地はたくさんあり、数日ではなかなか回れません。それでも少しでも多くの観光地に回りたと思っていました。それは、ニューヨークの映画の街並みがそのまま、全ての建物が圧巻の大きさでだからです。正直どの建物でも、写真に入りきれないほどの大きさでした。また、ニューヨーク市立図書館や、セントパトリック教会など、古代な建物と近代的なビルがとなり合っていたにもかかわらず、違和感無く調和していたことに驚かされました。

ニューヨークの人々は、初めて会った人でも大声で話されます。もちろん日本人の自分に対しても一緒でした。自分がレストランでくしゃみをすると、見ず知らずの隣の人から「Bless You!」と声をかけられました。日本ではなかなか無いことです。

このように、今回のバイクニューヨークは大会そのものだけでなく、大会以外の日もすごく充実し、すごく勉強になり、すごく感動的な日程でした。この経験をいろいろなかたちで貢献して行けたらと思います。

理学療法士 長谷拓也

Bike New York に初めて参加させて頂き、貴重な経験をさせて頂きました。自転車で70km走るのも初めてで、アメリカの大都市ニューヨークを自転車で走ることはそう簡単にはできないと思います。自転車でニューヨーク市の5区間を一日で回る事はあまりないとも現地の日本人の方も言っていました。

しかもテレビや映画でよく出てくる場所や建物を実際に見て、迫力の凄さに感動しました。

そして、スタートゲート前に見えていた、建設途中のワールドトレードセンタービルはBike New York 前日に観光で実際に見た建物で、自分が中学生の9月11日の夜9時頃、テレビで見た映像がよみがえりました。そして色々と考えさせられました。

その他にも、セントラルパークの広さやその先のハーレムの独特の雰囲気にはワクワクしました。ハーレムは、ブラック・カルチャーの聖地とも言われ、土その土地に入った途端、空気や雰囲気は変わり、夜一人では歩きたくないなあと思う程でした。しかし、ハーレムには、ブラックミュージックの殿堂でもあり、プロへの登竜門として、1934年以來行われてきた『アマチュア・ナイト』がアポロ・シアターで行われています。自転車で通過するのみだ

ったのが残念でした。又いつか個人的に行ってみたいと思いました。

ブロンクスには、MLBの『NYヤンキース』の本拠地である『ヤンキー・スタジアム』がある地域です。できればスタジアムの周りを走ったり、野球観戦もしてみたいと思いました。

ブルックリンの地区に入って一番のメインでもあるブルックリン・ブリッジ。

また、テレビや洋服のデザインでブルックリンから見たマンハッタンの街並みの光景はとてもカッコ良く印象的で実写は迫力がありました。

スタッテン島に到着して、**Fort Wadsworth Festival** 会場があり、参加者みんな自転車を止めて賑わっていました。

自分達も自転車を止めて、記念写真の撮影などを行っていましたが、気付くとそこにはゴールやフィニッシュと書かれたゲートもありませんでしたが **Bike New York** の地図を見るとスタート地点がフィニッシュ地点であったのかもしれない表記がありました。

実際に **70km** の距離を自転車で、それも世界の大都市の一つニューヨークを走ることは、凄く贅沢なことだと思いました。

今回、**Bike New York** に参加させて頂き、ありがとうございました。